

医療機器及び一般機器への適用を目指して、 展示会へ出展

都市エリア産学官連携促進事業(発展型)

当センターでは、本年度より文部科学省の委託事業として都市エリア産学官連携促進事業(発展型)を実施しており、同事業の一般型で開発した「金属アレルギーの問題を解決した生体適合性のあるCo-Cr-Mo合金」とその合金をもとに試作した人工股関節、医療用はさみ、動物用鉾などを紹介するとともに、高強度・耐磨耗性・高硬度・高耐食性等の材料特性を活かした一般工業材料としての展開を目的として、メディカルクリエーションふくしま2007及びクラスタージャパン2007に出展いたしましたので、その概要をご紹介します。

メディカルクリエーションふくしま2007

「メディカルクリエーションふくしま2007」は、11月16日(金)、17日(土)の2日間に渡り、郡山市の「ビックパレットふくしま」において開催されました。

この展示会は、(財)福島県産業振興センターと福島県が主催したもので、医療福祉機器の生産に必要な素材や加工技術等の展示に焦点をおき、医療福祉機器メーカーの製品展示と新規参入を目指すものづくり企業が素材、部材、組み立て、表面処理、システムなどの展示を同時に行うことにより、多くの医療福祉機器メーカーのR&D、製造・生産、購買関係者との企業間のマッチングを目指すMD&M(Medical Design&Manufacturing)型となっており、今年で3回目の開催となりました。出展者90企業・団体のうち、3分の2が地元、福島県でしたが、アメリカからの出展が1社あったほか、国内でも遠くは福岡県からの出展がありました。なお、岩手県からは当センターのみの出展でした。

入場者数は、1日目2,394名、2日目1,339名とやや少ない感じでしたが、医療福祉機器に特化した展示会であることから、関連業者等とのやり取りや出展者間の情報交換が効率的に行われるなど、充実した内容であったという印象を受けました。



当センターでは、従来から展示しているインゴット、丸棒、板、ワイヤー、ステムのほか、今回、新たにMRI対応医療用ハサミ、動物用鉾を展示しましたが、ワイヤーの製品化や精密鑄造などの具体的な案件があったほか、新合金の開発に興味を持った企業の来訪や逆に精密加工業者の営業など、人数的には少なかつたものの有意義な展示会となりました。



クラスタージャパン2007

「クラスタージャパン2007」は、11月28日(水)から30日(金)までの3日間、「東京ビッグサイト」東展示棟5ホールで開催されました。

この展示会は、文部科学省及び経済産業省において、地域の資源や潜在能力を活かした技術開発を支援し、両省連携のもと『知的クラスター創成事業』や『産業クラスター計画』等を推進することによって、地域における産学官連携及びイノベーション創出システムの構築を図り、地域経済の活性化を促進していることから、こうした取り組み等によって得られた成果を一堂に集め、情報発信、情報交換の場とすることにより、先端的な産業技術の動向を把握すること、さらには、新たな産業及び事業の創出、知的財産からビジネスへの展開を促進することを目的として開催したものです。併せて、国際競争力の強化と地域経済の活性化のため、クラスター形成を促進する方策について、成功事例をふまえながら議論することを目的としたシンポジウムを一体的に開催することになったことから、昨年度までの「地域発先端テクノフェア」から「クラスタージャパン2007」に名称を変更して開催したものです。

分野別では、ライフサイエンス41、情報通信13、ナノテクノロジー・材料24、環境20、エネルギー6、ものづくり技術29、その他15の企業・団体が出展し、岩手県からは、当センターのほか、(株)岩手情報システム、(株)東亜電化、(株)北上オフィスプラザ、岩手大学が出展しました。

3日間の入場者数は8,895名となりましたが、国際ロボット展、部品供給装置展等の同時開催があったことから、当ブースにも技術者や商社関係の来場者があり、専門的な質疑応答のほか多岐に渡る情報交換をすることが出来ました。

また、Co-Cr-Mo合金を原材料として検討しようとする方がいる一方で動物用鉾などの製品として興味を持っている方もいることから、これらの方々を含めて県内外の企業等を募集して「いわてコバルト合金アドバンスフォーラム」を設置することにより、研究成果の普及や情報交流を推進していくこととしております。

